オオフサモ　多年草、水中に群生する。根は長く泥中に張る茎は太く、上部は立ち上がり水面に出る。

二　木　本　類

㈠　食用となるもの

アケビ　山地に自生するつる性、秋に果実となり割れて甘い。開け身の意からこう名付けられた。

アンズ　原産は中国北部。春早く葉より先に花をつける。

イチジク　今はほとんど栽培種で店頭に出回り人に喜ばれる。

ウメ　日本には遣唐使により移入されたといわれる。早春の観梅はまた格別の風情がある。梅干し、梅酒など用途は広い。

カキ　赤い柿の実は山里の象徴的な風景、しかし最近の食生活が豊かになり子供等も食べようとしない。上質のものが店頭へ出る。

キンカン　花は年二回つくが主に夏のものが冬に熟し薬用にもなる。

クリ　栗拾いは楽しい秋の風物詩だが、食べるにはいがをむき、堅い皮やしぶ皮を取るなど手間のかかる果物である。

グミ　日本原産、夏グミは四月に花、六月に熟し、秋グミは十月ごろ鈴なりになる。朝鮮グミは栽培される。

クチナシ　アカネ科の常緑低木、花は初夏に咲き白色で芳香があり染料にする。

クコ　山野にも自生、秋になると紅色小球形の実をつける。枸杞酒は薬用。

ケンポナシ　当地方ではテンポコナシと言う。今は実在がまれである。

サンショウ　ハジカミともいう。果実は香辛料で枝に激しい棘がある。家庭用には棘のないアサクラサンショウを栽培すればよい。

サクランボウ　主として東北地方に多い。当地方にも実は小さいが存在する。

ザクロ　果肉は甘酸っぱい。根皮、果皮は乾かして薬用とする。

ダイダイ　暑さ寒さに強い。一樹に三代の果実を見ることができる。

チャ　山野に自生するが茶所として大量に栽培する。家庭での藪茶つみも捨て難いものがある。帆柱の茶は犀川の特産物である。

ブドウ　生食のほか、ブドウ酒・干しブドウ・ゼリー等利用価値も広い。改良された種無しブドウ・マスカットは秋の味覚の王様。

ビワ　果実もうまいが、肉質の厚葉は最近、薬用としてブーム。

マタタビ　伊良原・帆柱附近の深山に自生している。果実はギンナンに似ている。強精剤として神秘的な効果があるとされる。

ナシ　野生のナシの木が多かったが今はほとんど見当たらない。

〈その他〉

ミカン・モモ・ヤマモモ・ユズ・ユスラ・イチョウ等、食用となるものが多く列挙せられる。

㈡　観賞用となるもの

アジサイ　落葉低木、幹は根から叢生、高さ一・五㍍、葉は広卵型で対生。六、七月ごろ球状の花を多数つける。

カイヅカ　剪定により枝振りが作りやすい。庭内や生け垣に利用される。

キョウチクトウ　初夏より秋にかけての花は美しいが、茎や葉から出る

液は有毒で注意を要する。

サクラ　山桜・里桜・八重桜・彼岸桜・緋寒桜・枝垂桜など種類は多く、昔から国花として馴染み深い。

サザンカ　別名は小椿・茶梅と言う。山野に自生種がある。

シャクナゲ　高山を適地とする常緑樹、四月ごろから赤紫の花が咲き気品があり美しい。帆柱高瀬氏の人工石楠花群落は見事で年々遠方から見物客が訪れる。

ジンチョウゲ　花は芳香が強い。沈香と丁香の香りとしてこの名がある。

シュロ　九州地方を原産とするヤシ科の常緑樹。

ソテツ　公共的建物の玄関先によく植えられる。

サルスベリ　花期は夏から秋にかけて長いので「百日紅」の別名がある。

ツツジ　犀川町の町の花として指定している。サツキ・ヨドガワ・レンゲツツジ・ドウダンツツジ・キリシマ・ヤマツツジ等同種が多く庭園には必ず用いられているようである。

ツバキ　北海道以外の全国に自生している常緑樹、種子は椿油を採る。山茶花と違う点は椿は花全部が一緒に落ちサザンカは花片が一枚ずつ落ちる。ワビスケも椿の一種。木山の奥静子さん方にある唐椿は九州でも数本しかないという珍種である。

バラ　全世界に分布している。四〇〇〇万年前の化石もあるそうだ。

フジ　山野に自生するつる性植物。山藤のつるは左巻きである。下がるほど見上げられるものは藤の花。四、五月ごろ藤見が行われる。

ボケ　バラ科の落葉低木、白は白ボケ、紅は桜ボケ、緋色はヒボケ。

マキ　常緑樹で庭木として愛好される。雌雄異株で花は熟すと暗赤色の種子になるが果実のように見える。材は建築や器具用。

ムクゲ　朝花が開いて夕方しぼむ短命花。ハイビスカスに似ている。

モクレン　落葉植物、四月ごろ葉より花が先に咲く。

コブシ　山野に自生するモクレン科落葉高木、早春真っ白な花がつく。

モクセイ　花の色でキンモクセイ・ギンモクセイに分ける。芳香がある。

モッコク　分枝が輪状に出るので枝振りが作りやすく庭木に用いる。

ナンテン　野生種は少なくなった。

＜その他＞

レンギョウ・ヤマブキ・ヤツデ・カラタチ等

㈢　灌木に類するもの

アオキ　雌雄異株、山林の日陰を好む。花は六月、実は冬に小円形のものをつけ、紅色で鮮やか。薬用になる部分が多い。

イタツゲ　俗にイカシバと言う。枝が密生するので造形を楽しむ。

エニシダ　細い緑色の枝に六月ごろ黄色の花をつける。金雀児と書く。

クロモジ　楠木科、材は爪楊枝に用いる。本町の山地にまれに見る。

クワ　昨今は養蚕業も少ないので野生化したクワをときどき見受ける。

コウゾ　クワ科の落葉低木、広葉樹林に交じって自生する、江戸時代から紙の原料として重要だった。六月ごろ赤い液果は食べられる。

サカキ　五月ごろ小さい白色の花をつけ秋には黒い実がなるが、これは食べられない。昔から神木として供えられる。

シキミ　春に花が咲き結実するが有毒である、葉に芳香があり小枝は仏前に供える。材は鉛筆、寄せ木などに使用。

サネカズラ　常緑つる性の雌雄異株、枝皮から出る粘液は整髪料となり別名ビナンカズラとも言う。

センリョウ　樹陰を好む。冬に小さな赤い実が枝の頂上につき、正月用の床の間を飾る。

マンリョウ　幹は直立して三〇～四〇㌢、センリョウに似て赤い実をつけるが下向きにつく点が異なる。俗に百両・十両など変種がある。

ダラノキ　ウコギ科の落葉低木、普通ダラと称し激しい棘がある。若芽は香りよく食用になる。樹皮を干し諸種の薬用となす。

ツゲ　木質は堅く材は印章・櫛・将棋の駒・版木などに用いられる。

ツタ　茎に吸盤のあるひげを持ち樹木や石垣・壁に這う。

トベラ　雌雄異株で花は初夏、異様な臭気を持つ雑木。

ネズミモチ　冬になると黒紫色でネズミの糞に似た実を枝先につける。

ハギ　豆科落葉低木、秋に白または紅紫色の小花をつける。山萩・野萩とあり鑑賞用になる。秋の七草の一つである。

ヒイラギ　葉に鋭い棘があり、初冬に芳香のある白い小花をつける。

フヨウ　アオイ科落葉低木、初秋に淡紅または白色大型の花が咲く。

ヤブコウジ　さきに記した「十両」の本名である。

ウメモドキ　モチノキ科、山地に自生し梅の葉に似ている。花は六月ごろ。

ノイバラ　幹や枝はつる状に伸び鋭い棘がある。歩行に邪魔になる「茨の道」とはこれから出た言葉だろう。花は白色。

ウツギ　初夏、卯月に花をつける、幹の中が空なのでこの名がある。

ニワトコ　四月に花、六月に赤い実をつける。発汗、利尿作用があり、打撲の消炎剤となる。

㈣　高木に類するもの

エゴノキ　落葉樹。樹皮は密漁用の魚毒として悪用されていた。材は木目が細かく玩具・糸巻き・細工物、傘のロクロなどに使われる。

エノキ　落葉喬木、果実は熟せば食べられるがうまいものではない。単にエノミというのはこの木の実だろう。材は建築・家具材となる。

カシ　ブナ科の常緑樹、材は堅く器具や木炭の原木ともなる。木井神社のイチイカシは天然記念物として県指定を受けている。

カヤ　雌雄異株、種子は秋に熟し食べられる、油を採る。材は耐水性があり舟材・桶材及び碁盤に用いる。

カシワ　落葉樹だが葉は枯れても落ちずに翌年新芽の時に落ちる。

カエデ　種類も多く秋に美しい紅葉するいわゆるモミジの代表格。

クスノキ　常緑樹で生命力旺盛、巨木が多い。幹も葉も香りが高く、木質良好で家具・彫刻に適している。

クヌギ　椎茸栽培・木炭の原木として貴重だが、最近木炭の需要が減少したので、山村の本町にも炭焼きの人が少なく生産量も微々たるもの、しかし一説によれば木炭の需要の範囲が広がり、前途は明るいとの話もある。

キリ　生長の早い落葉樹、木質は軽く品格があり家具や下駄に用いられる。今やこの附近ではその原材は少なく貴重品である。

シイ　ブナ科の常緑樹、花は六月ごろ、雄花は穂状で白く山に目立つ。果実は翌年秋に熟し渋味があるが食べられる。材は建築用や椎茸の

原木にもなる。

スギ　幹が真っすぐに伸びるので建築材の代表格である。植林奨励により町内の山々の至る所に美林を構成している。生命力も強く例えば蔵持山の大杉・英彦山の鬼杉、はては屋久島の縄文杉等有名である。

センダン　初夏に淡黄の花をつけ秋に楕円形の白黄色の実が梢に連なる。材には香気がある。

トチノキ　花は五月ごろ大きな円錐花房でつく。材は建築用。

トリモチ　樹皮からトリモチを作る。これで鳥・昆虫を捕る。

ヒノキ　建築材の最優良品。檜の美林が多い犀川町は、これを「町の木」に指定している。アスナロは檜に似ている。

ハンノキ　カバノキ科落葉高木。川岸や湿地に自生。樹皮は染料。

ハゼノキ　紅葉は美しい。ハゼの実から木蠟が採れる。

ブナ　ブナ科広葉樹林の代表種。低地に自生するものをイヌブナと言う。材は堅いが案外狂いやすく腐りやすい欠点がある

ホオノキ　モクレン科落葉樹。春芽立つころには樹皮が木質と離れやすく、子供が刀を作る遊びにしていた。枯れ落ち葉を踏むと高い音に驚く。

ミズキ　樹液が多いのでこの名がある。材は白く軽いのでコケシに使われる。花期は晩春、枝先に白色の小花を散房花序につける。

ムクノキ　ニレ科の大型落葉樹、果実は秋に黒く熟し子供が愛好する。上木井の「椋ノ木」は先年天然記念物として県指定となる。

ムクロジ　種子は円く堅いので追羽根の玉に用いる。果皮はサポニンを多く含んでいるので石鹸の代用になる。

モミ　日本特産である。材は建築材・楽器・船材など用途は広い。幼木はクリスマスツリーに使われることが多い。

ネムノキ　花は六、七月ごろ薄紅色で絹糸状につく。夜になると葉をたたみ就眠運動をするのでこの名あり。

ナラ　いわゆるドングリの木である。コナラとも言う。用途は家具類やシイタケの原木、優良炭が得られる。

ニッケイ　この木の根を掘り出し乾かすと辛味のニッケイができる。本町でもめったに見当たらない。崎山の古屋敷跡にある。

ニレ　材は重く弾性があり割れにくいので板用に、繊維は紙・布を作る原料。

ユズリハ　新芽が伸びてから先年の葉が落ちるので代々を譲るという縁起で正月の飾り物に使われる。

ノグルミ　今はこの大木はまれである。小木はシイタケの榾木にする。

㈤　水辺に見かけるもの

ヤナギ　ヤナギ科の植物の総称。水辺に自生し生長が早い。種類にカワヤナギ・ネコヤナギ・ハコヤナギ・シダレヤナギなどがある。

エゴノキ　川ギンナンとも言う。花は五、六月ごろ五弁の白い花が下垂して群がって咲く。花後、緑の丸い果実が多く下がる。

三　竹　本　類

モウソウチク　竹類としては最大種、マダケとともに広く自生している。用途は主として竹細工、以前は海苔養殖や漁業に使用されていたが、それも最近使われなくなった。モウソウの名は中国故事二十四孝の